

上京 史蹟と文化

2002 VOL. 23



美を創る

写真家

松尾弘子

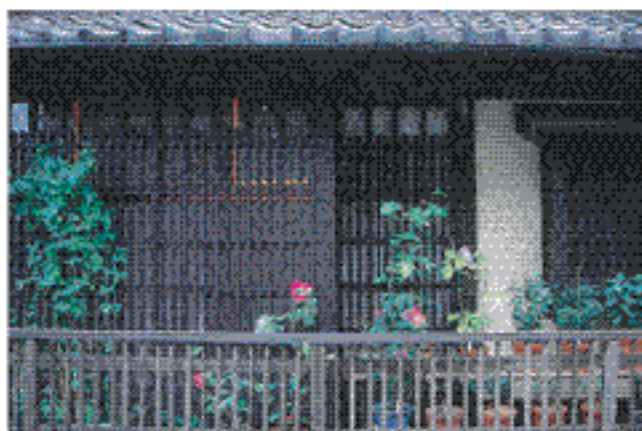
京都市上京区烏丸今出川下る



西陣織工業組合から発行されている『西陣グラフィック』は、上京区の基幹産業である西陣織の技と美を広く周知させるグラフィックである。月刊のグラフィックを企業組合が発行しつづけて、すでに五百号を越えているというところは、業界でも希有のことである。

ここに登場いただいた写真家の松尾弘子さんは、ご本人が「私は『美を創る』には似合わない」と言われながらも、カメラを通して見て来られた西陣の美を熱く語っていた。今、京都の町家は急速に注目されている。しかし、その裏分けは、西陣の町家を中心に写真家の眼で、生かされた町家を紹介されてこられた松尾さんだといえよう。

同志社大学の新聞学科を卒業された頃は、御多聞に残れず就職難の時代、新聞社、映画界といろいろな方面に眼を求められたという。当時、女性の専門的な就職は特に困難であった中に、ご縁をいただいたのが西陣織



工業組合の広報室で、上京区内に住んでいたお蔭だといわれる。

そこで「西陣グリン」の編集に携わることになり、織屋さんの仕事場を尋ねて取材を続けるうちに、自分の織物を創作し、生かすために美術館巡りをしたり、美術館の豪華本を蒐めておられる匠さん達の姿に、感銘を受けられた。その姿を写真で表現するためには、自分で写真を撮らなくてはできないという思いから、カメラを手にされることになった。素人カメラマンとして写すうちにカメラにのめり込み、織物や織屋達の美しさに惚らわれている間に、西陣の「ものづくり」の研ぎ澄まされた感性の中で育てられ、感動する写真の撮れた時は、織屋さんに励まされたり、織屋の励ましになると、褒められもしたといわれる。反面、織屋達が西陣の町家の特徴であるのに、それが削られようとするのが残念だとも語っておられた。

松尾さんは、このように「西陣グリン」という広報誌の編集を四十年にわたって担当されながら、西陣の盛衰を眺めて来られた。今は写真家として、広く京都の町家を記録し、紹介する仕事に、人生の生甲斐と、西陣に対する感謝の心を持ちつづけられていると思わされました。

一条通

現在の一条通というと、上京区内でも主要な道路とは思われていません。

烏丸通から紙屋川まで六メートル以下の道幅で、しかも途中で喰い違ったりして、生活道路としての性格が強いといえるでしょう。

ところが、千二百年前をふりかえってみますと、この道は平安京の北辺を区切る大路であり、山城盆地の北部を東西に抜ける街道ではなかったかという説もある重要な道でした。はたしてこの一条大路は遷都当時から最北端の大路であったかという、諸説が唱えられています。最初は二町南の土御門大路が一条大路（北京極大路）で、平安京造営後、北へ二町分拡張されたというのです。平安京の大内裏（平安宮）は南北十町、東西八町の長方形です。しかし、平城京の大内裏は八町四方の正方形で、後に宮城を二町分北へ広げたという説もあり、長岡京も、まだよくわかりませんが、宮城としては八町四方、その北二町分に附属施設があったと考えられています。

藤原京・平城京・長岡京の宮城や条坊についての当時の文字記録は残って

「上京の史蹟シリーズ」

上京の大路小路

(その5)

おりません。ところが、平安京の条坊に関しては『延喜式』にその全貌が載せられています。『延喜式』は、それまで各官衙に保管されていた律令の施行細則を集大成した最後のもので、延長五年（九二七）に完成しました。平安京ができてから百三十年を

す。また、平安時代末期の『延喜式』の写本（国宝）の裏面に平安京の条坊図が描かれており、陽明文庫所蔵で近衛家に伝来した『宮城図』（重要文化財）は鎌倉時代の写本ながら、平安時代の原本を写したものと思われる宮城・内裏・八省院・豊樂殿の建物の配置図



一条戻橋の欄干親柱

が残されています。これらの史料によって平安京は掘らなくても往時を偲ぶことができました。それに、通り名や町名も平安時代以来の呼び名を残しているものが多く、その位置を明らかにしてくれています。

その一つが一条通です。一条大路は平安京の北端を区切る大路であり、それより北は京外とされ、山城の国司の管轄下になりました。そのため北京極大路ともいわれ、その東端は東京極大路、西端は西京極大路で今の嵐電妙心寺駅付近になります。東西三十二町、『延喜式』には東西一五〇八丈と記録されており、約四・七キロです。

現在の一条通は烏丸通から始まり、すでに江戸時代、寛永十四年（一六三七）の『京都絵図』でも烏丸東入るところの一条家の屋敷で行き止まりになっています。鴨川から東には、吉田神社の参道につづく東一条通がありますが、これは明治時代に開かれた新道で、実際には一条通より一〇〇メートルほど南になります。烏丸通から西へは狭い道ながら七本松通まで一直線に延びています。そこから少しずつ南へずれながら上京区の西端の紙屋川に至ります。そこまで三・五キロあります。その先

は、今出川通の府道銀閣寺・宇多野線とつながり、西大路通を越え、妙心寺の北側を通り、双ヶ丘の北を宇多野に至ります。妙心寺の西北角が、一条大路と西京極大路の交点に当たります。

京都御苑

京都御苑の東北方に「母と子の森」という公園があります。（京都御苑は、宮内庁管理で紫宸殿を中心とした京都御所、上皇の御所であった仙洞御所、皇太后の御所であった大宮御所などを

除く国民公園をいい、環境省が管理しています。）その東北の一郭が京都迎賓館の工事現場です。ちょうど母と子の森と東の石垣の間が東京極大路に当たります。幅一〇丈ですから、三〇メートルにもなる道路です。一条大路は京都迎賓館の北側で、森の文庫との間になります。ここが平安京の東北隅になります。そこから京都御所の北部、皇后御殿の南側から宮内庁京都事務所の玄關に至ります。

一条大路から南へ二町の土御門大路との間は北辺坊きたへといわれ、それより南四町を一条といえます。これは先ほど



一条烏丸西入あたり

触れましたように、北へ二町広げた名残りといえましょう。このあたりは平安時代の高級住宅地といえます。藤原氏一族をはじめ多くの廷臣が屋敷を構えていました。北辺四坊四町というところでは京都御所の御常御殿があるところですが、ここは藤原道長の邸宅の一つである一条第（一条院）の位置と推定されています。昭和五十一年頃、京都御所内での発掘調査で一条大路の石敷の道路面が発見され、大路の北側は若干盛り上がり、土塁があったと考えられています。



京都御苑・母と子の森 この下に平安時代の一条大路が埋まっている

烏丸から堀川まで

明治になり京都御苑を公園化する際その周囲に石垣が築かれますが、烏丸通も狭く西側にも公家屋敷が軒を連ねていました。烏丸一条下るの府民ホー
ル・アルティにあるエノキも東園家の庭木でした。高さ二五・五メートル、胸高幹廻四・九五メートル、京都府の天然記念物で、上京区民の誇りの木にも選ばれています。

このあたりの町名は、広橋殿町・一条殿辻子とか、東西の日野殿町というように、公家屋敷のあったことを物語っています。上京中学校のあたりは三坊四町で、一条大路の北側には、賀茂祭（葵祭）の祭列を見る棧敷が設けられました。平安京は中国の都城のように城壁に囲まれない代わりに、低い土塁が築かれていたことが、このことからも知られます。内裏を出発した勅使の列や、大宮の北、櫛谷七野神社のあたりにあつたという賀茂齋院からの齋王列をはじめ、参詣する公卿の賑々しい行装が一条大路を東へ、賀茂社へ牛車を連ねたのでしょう。その様子は、平安時代の公家の日記や文学作品、さらに『年中行事絵巻』などに見ることが

できます。

一条通の新町から西洞院の間を元真如町といいます。その名の通り、真如堂（真正極楽寺）が応仁の乱後、文明三年（一四七二）にこの地で再建し、百年余を経て京極今出川へ移るまで、ここにありました。今は神楽岡へと再移転しています。

狭い一条通が小川通を過ぎると急に広がります。その南半分は昭和三十八年に埋め立てた小川の旧河道で、一条通の部分を佐良志川、または更級川（さざな）といいました。堀川に合流する東岸には主計橋が架かっていましたが、今では痕跡を残していません。

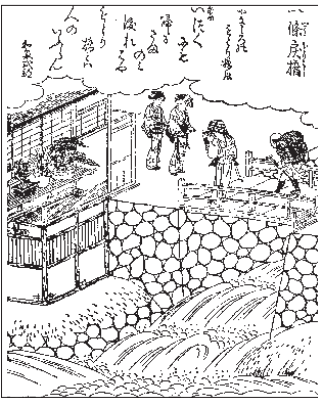


一条室町あたりの古い商家

油小路一条上る一帯を元百万遍町といいますが、これも百万遍知恩寺の旧地です。上賀茂社の神宮寺として創建され、今の相国寺の北にありましたが、

足利義満によってここへ移され、応仁の乱に焼亡し、秀吉の市街地改造により京極土御門へ、さらに今の田中の地へ移りました。

その北一帯は草堂町・草堂前町といいますが、ここには寛弘元年（一〇〇四）、草上人といわれた行円によって創建された行願寺があつて一条草堂（いちじょう）と呼ばれた。室町時代には下京の六角堂に対して上京の中心とされ、事あれば鐘を鳴らして人を集める町堂でした。応仁の乱に



江戸時代の一条戻橋（都名所図会）

焼亡後、天正の秀吉の市街地改造により寺町荒神口に、さらに宝永の大火後今の寺町竹屋町に移転しました。

一条戻橋

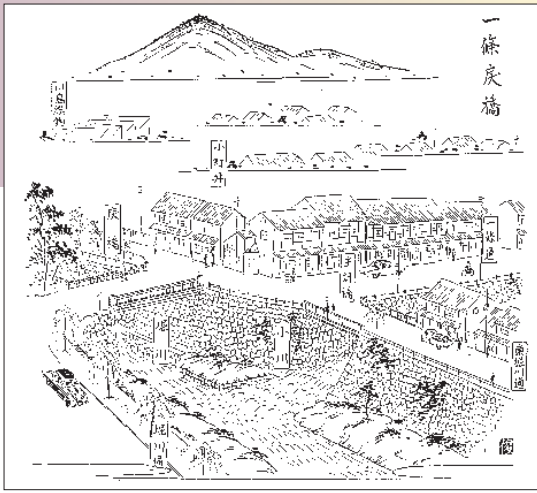
陰陽師ブームで一条戻橋の名は、それまで以上に有名になっています。大正十一年と昭和二十七年に架け替えられた戻橋は小川の埋立により、その合流点の堀川に新道橋という歩道橋ができました。平成七年七月にこの二つの橋の一つにした幅広い戻橋に生まれかわりました。これではイメージに合わ



晴明神社に移設された一条戻橋の旧親柱

ないというのか、テレビドラマやマンシヨンの折込広告では、一筋南の堀川第一橋（中立売橋）が化けているようです。堀川第一橋は明治六年に架けられ、当時の白川の石工の腕の冴えを極めた名橋として知られています。

一方、一条炭橋はどうでしょうか。江戸時代の『都名所図会』には貴重な絵が残されています。左側は堀川に架かる炭橋、右側は小川の主計橋です。その角には料亭があり、座敷の外は生魚を入れた生簀なのでしょう。いずれの橋も木橋で、滔々と流れる水は今では想像もできない風景です。もう一枚は、上京区在住の歴史家であった竹



昭和30年代の一条炭橋（新撰京都名所図会）



現在の一条炭橋あたり

村俊則氏が、その著『新撰京都名所図会』に描かれた昭和三十年代の炭橋の図です。小川に架かる東堀川通の主計橋、小川の石垣など往時の姿を伝えています。現在の風景と見くらべてください。

さて、一条炭橋には数多くの伝説があります。まず、延喜十八年（九一八）のこと、文章博士の三善清行の葬列が、一条大路のこの橋にさしかかったところ、熊野詣の途中であった子の浄蔵貴所が、父の死を感じて折り返し、ここで加持祈祷をすると、父が一時息を吹き返したので炭橋となったというのが最も古い伝説です。

二つ目は源頼光の四天王の一人である渡辺綱が、この橋で美女に出会いますが、川面にうつる姿を見ると鬼女であったので、正体を知り鬼女の片腕を斬り落としたという話です。この話は江戸時代に河竹黙阿弥が歌舞伎「炭橋」に仕組まれてから、炭橋と鬼を結びつける説話の代表のようになりました。さらに有名にしたのは、天文学博士の安倍晴明の式神でしょう。小説や劇画が、さらにテレビドラマ・映画にと、謎の陰陽師として取り上げられ、京都魔界の目玉となってしまいました。晴明は式神しきがみ十二体を橋の下に封じ込め、用事のある時に呼び出し、吉凶の占に

あたったといわれています。現在の炭橋の川床には樹木が茂り、妖怪が住むにふさわしいような景を作り出し、今も深夜に式神が晴明神社へ通っているのでしょうか。ほかに、罪人が粟田口

の刑場で処刑される時に、炭橋の上で花と餅を供えられて、真人間になって戻ってこいと諭されたという話も伝えられています。

このような由来から、嫁入りにはこの橋を渡らないという風習もあり、さらに進んで、戦前には戦地から無事に帰還できるようにと、出征兵士を渡らせました。この橋を渡って戦地に赴いて無事復員し、今も元気で老後を送っておられる方も多いと思います。

なお、昭和二十六年に架けられた旧橋の欄干の親柱は、晴明神社に移されて小さな石橋に復原されています。

堀川から千本へ

炭橋を渡った先は広い堀川通です。前回の堀川通で書いたように、ここは終戦直前の強制疎開でもって西堀川通の両側を広げたのです。そのため、堀川上之町と堀川下之町の二町内は全く住宅がなくなっていました。しかも、ここから西の一条通は道幅が急に狭くなります。

このあたりを如水町といい、猪熊通を西へ入った南側に「黒田如水邸趾」の石標が立っています。豊臣秀吉の軍

師といわれた戦国時代の武将黒田孝高（如水）が天正・文禄の頃（一五七三〜九六）に住んでいました。ここには最近まで、その当時の庭が民家の裏に残っていたといえます。

大宮大路は幅一二丈、大内裏の東を区切る道です。猪熊から大宮の間は、北辺坊の二坊一町にあたり、ここは一条天皇の里内裏である一条院がありました。この邸は藤原氏に受け継がれ、謙徳公といわれた藤原伊尹らが住みました。

大宮通から西は大内裏になります。ところが、このあたりの町名には聚楽第にかかわるものが目立ちます。聚楽第は豊臣秀吉が政権を誇示するために造営した豪華な邸宅ですが、養子秀次

に謀反の疑いが生じ、切腹させられたあと徹底的に破却されます。そのため、その範囲さえも不明確で、地下遺構もあまり発見されません。そうしたなかで手がかりとなるのが町名です。

当時、秀吉輩下の武将の屋敷も周辺に建てられたようで、上杉弾正大弼景勝の弾正町、蒲生飛騨守氏郷の飛騨殿町、伊勢兵部少輔の伊勢殿構町などがあります。外壕の石橋によると思われる下石橋町をはじめ、南へ行くほど聚楽第に因む町名は多くなります。

大宮一条あたりの土地はかなり高くなっており、さらに一五〇メートルほど北には、新しいものながら三メートルほどの段差をもつ石垣があつて、聚楽第の北端の名残りでないかという説

もあります。

大内裏の四方には、それぞれ門が開かれ、南面と北面には三つ、東面と西面には四つ、南面の正門の朱雀門は七間五戸、ほかの二門、東西面の上東門・上西門以外の三門と北面の三門は五間三戸の格式がありました。上東門と上西門は土塀を削り抜き扉を取りつけた格式の低いものであつたようです。その故に土御門といわれました。

大内裏の北端の一条大路は今の一条通より南になります。大宮大路から二町西にある達智門は裏門通にあたり、その二町先の偉鑿門は千本通の東、さらに二町西の安嘉門は七本松通の西あたりになります。残念ながら未だその地下遺構は発見されてもいず、将来の発掘が期待されます。

智恵光院通から千本通の間、一条通より北は寺院が密集しています。中世の上京は大内裏址の内野や、その周辺に大きな野（空地）がありました。転々としていた寺院が、そのような土地を与えられて伽藍を構えたのでしょう。浄福寺や智恵光院は通り名にまでなり

ました。

千本から紙屋川まで

浄福寺通あたりからは一条大路より北へずれながら千本通を越えて七本松通に突き当たります。そこから南へずれ、一条大路へ戻ります。この姿は寛永の『京都絵図』にも見られ、大内裏の消滅とともに、こうなつたのでしよう。

七本松通と一条の交差点は三角形になっています。これは中立売通を西進してきた北野線の電車が北野神社へ向



黒田如水邸址の碑



歩道タイル



からくり時計



上京区の西端、紙屋川の一条橋



北野線電車のレリーフ (エンゼルハウス)

かつため、六軒町通と七本松通の間を斜めにつないだためです。このポケットパークには、チンチン電車をデザインにしたモニュメントが飾りつけられており、歩道にもチンチン電車のタイヤが嵌められています。さらに、エンゼルハウス(京都こども文化会館)は北野車庫の跡地であるところから、塀に北野から京都駅に至る北野線の沿線のレリーフが作られているのも、昔の姿を思い出させられます。その前には、一時間ごとにかくや姫と西遊記の「からくり時計」が時を知らせてくれていました。それもすでに二十年になりました。下ノ森でもとの狭い一条通になりました。

す。かつての北野天満宮の参道であった西陣警察署、その西の旧嵐電北野駅あたりは一条通の商店街の賑わいをもたらししました。今も賑わう一条通の北側には、方除の神として信仰を集める大將軍八神社があり、ここには平安時代から室町時代に至る七九軀の大將軍神像は重要文化財です。紙屋川の一条橋を渡っても延々と一条通は西へ続くのです。

参考文献

- 秋里 籬島 『都名所図会』
- 碓井小三郎 『京都坊目誌』
- 竹村 俊則 『昭和京都市名所図会』
- 古代学協会 『平安京提要』

永年の信用
まごころのご奉仕

葬祭センター

公益社

本社 京都市中京区扇丸通三条下る 葬075(221)-4000
フリーダイヤル 西0120-00-4200

◆葬儀式場◆

- 公益社北ブライツホール(堀川駅前) 京都市北区深町通堀川東入 葬075(414)0420
- 公益社中央ブライツホール(五ノ条) 京都市東山区五条通大和大路 葬075(551)5555
- 公益社南ブライツホール(堀川八条) 京都市南区堀川通八条下る西側 葬075(662)0042
- 公益社宇治ブライツホール(宇治駅前) 宇治市藤島町(文教大学前) 葬0774(20)0142
- 公益社東ブライツホール(大津) 大津市朝日が丘1丁目 葬075(523)0042



現在発掘調査をしている京都市立上京中学校の様子（東から）

上京の埋蔵文化財

上京中学校の発掘調査から 金箔瓦の謎

（財）京都市埋蔵文化財研究所は今年六月から七月末にかけて、京都市立上京中学校内の一条通に面した部分で発掘調査を行っています。今回の調査は校内四次目の調査となります。上京中学校の位置は平安京跡の東北部（左京北辺三坊四町）にあたりと共に、鎌倉時代から江戸時代に繁栄した「上京」に含まれています。調査は江戸時代から始めて、今、桃山時代（今から四〇〇年前）の人々が生活した地面、つまり信長や秀吉、NHKテレビドラマで評判のまつや利家が歩いた地面まで掘り下げています。この面では南北の大きな堀を発見しました。堀は南側の三次調査で検出した大規模な堀（幅約五メートル、深さ約二メートル）と関連するもので、中には瓦がぎっしりと埋まっています。この中から金箔瓦を数百点発見しました。

みなさん、「金箔瓦」ってご存知ですか？ 京都市考古資料館に展示しているので見たことがあるかもしれません。金箔瓦というのは、屋根瓦の一部を金箔で装飾した瓦です。金箔だけでは瓦に貼り付けられないので、漆を接着剤として塗った上に箔押ししています。瓦の種類は屋根軒先の文様瓦（軒丸瓦・軒平瓦）や棟の鬼瓦・鯨瓦・飾り瓦・

本家 玉壽軒

〒602-4415 京都市上京区今川大宮東入
TEL (075)441-0319・414-0319

花工度

いろいろな花に
心づくろい お花の贈りもの
花束・アレンジメント

—お電話でのご予約承ります—

京都本店
京都市上京区堀川南側1丁目
TEL:075-414-9700 FAX:075-414-3787
URL: <http://www.hanakura.co.jp>
E-mail: han-ten@hanakura.co.jp
備前店・大塚店

熨斗瓦などで、屋根の目立つ部分を金色で縁取りしたような感じとなり、決して全面に書いていたわけではありませんが。

金箔瓦は織田信長が安土城を築造した頃（一五七三年）から、豊臣秀吉の大坂城落城（一六一五年）の約四十年間に作られたものといわれています。この金箔瓦は、京都市内では上京区や伏見などでたくさん発見されています。金箔瓦は、これまでに上京中学校内では三〇〇点余り出土していますが、

東側のKBS京都では約二〇〇点・京都平安会館では五〇点、西側の新町小学校では約二〇〇点、その他京都ブライトンホテルや京都府警察本部などでも出土しています。なぜ、これらの場所でも金箔瓦が出土するのでしょうか。天正十四（一五八六）年に、豊臣秀吉は、今の上京区の一部に聚楽第を造営します。金箔瓦はこの聚楽第の東側で多く発見されており、このあたりに秀吉の有力大名の屋敷が建てられたと推定されています。さらに、発見された瓦の

家紋によって、屋敷の住人も想定されていますが、同一家紋が各地で出土したり、家紋と合わない場合があったりと、不明な点も少なくありません。当時の人々は、たとえ部分的であっても、黄金色に輝く瓦にはびっくりしたことでしょう。この金箔瓦は桃山時代を代表する遺物であると共に、謎に包まれた瓦といえるでしょう。

（財）京都市埋蔵文化財研究所

上村和直



京都市上京区烏丸一条下る龍前町から出土した金箔瓦



京都市立新町小学校から出土した鹹瓦

**加藤
眼科**

〒603-8116
京都市北区紫竹上本町七
(堀川通北山山ノ上ル西側)
TEL(075)493-8600

診療時間

月・火・水・金
午前9:00~12:00
午後4:00~7:00

木・土
午前9:00~12:00
休診 日曜・祝日



**松宮砂糖商事
株式会社**

砂糖・甘味料・食品原材料元卸
ギフト用砂糖セット製造販売元

〒602-8471 京都市上京区五辻通浄福寺西入
TEL (075) 431-3351(代)
FAX (075) 431-3355



上京の
町家

京都北野郵便局

上京区今出川七本松西入上七軒

京都には思わぬところに、昔ながらの風情を生かした公共建築物を見ることが出来る。交番、地下鉄の入口、公衆便所、電話ボックス等々、京都ならではの町並の調和が自然体で行われているように思える。

北野天満宮の門前で栄えてきた花街の上七軒には三町ほどの間にお茶屋が軒を連ねていた。昭和三十年代には四十軒を数えていたというが、今は何軒だろうか。

北野天満宮の東門を出て上七軒を歩く。南側のお茶屋の前に、赤いポスト、軒には赤い千の看板、通りに面した格子は、郵便事業を周知するポスターを貼った掲示板。入口のガラス戸から中を見て、ここは郵便局だったのがと足を止めさせられる。二階を見ると面構と同じような手すりに簾垂、お茶屋風である。

局内で局長の大串靖さんに話をうかがう。聞いてみれば、先代局長の実父頼長さんの上七軒に対する思い入れが感じられた。現局舎より少し西で明治九年に開局して以来、上七軒の中で親しまれてきた局舎が老朽化したために、昭和四十年代に廃業して空家となっていたお茶屋を生かしてはと思われたという。しかし、当時の郵政省の規定では、このような局舎は認められなかったのだが、

やがて規定も緩和され、昭和六十三年、移転開局にこぎつけた。

表は可能な限り元の姿を残し、内部は近代的な郵便業務に対応できるように改められたが、それでも二階を支える大きな梁は、表面を塗装されながらも、町家ですよという誇りを現わしている。二階は和室のままで、局員の休憩室に使われているという。お茶屋の二階で昼休みとは、うらやましい現代である。

地方から来た観光客が珍しそうに覗き、表で記念撮影して行く姿も、よく見られるそうである。



上 京 区 民 FESTIVAL

文化フェスティバル



八回目を迎えて上京区民の中につきかり定着した「上京区民文化フェスティバル」は、今年も上京区民ふれあい事業実行委員会の主催で、二月二十四日に西陣織会館で行われました。日頃研鑽を積んだ上京区民の至芸が披露され、終わりに上京区ゆかりの歌手、大林幸二さんの歌謡ショーと上京音頭の総踊りで、三時間におよぶ催しに観客の喜ばせました。



ふれあい文化大学

ダンスで楽しく健康



上京区民ふれあい文化大学は、上京区女性連合会の主催で、二月六日に「健康とダンス」をテーマに京都プライムホテルで行われました。

社交ダンスのプロとしてご活躍中の木田真鶴恵氏を講師に迎えて、ダンスの基本姿勢、ウォーキング等による健康の基本でもある呼吸方法と、美しいふるまいや身体と心の健康について学びました。

先生の楽しいお話を聞き、すばらしいピアノ演奏の中、テイ・タイムをはさんでの短い時間でしたが、誰でもが参加できる社交ダンスとして、参加された五十名を超える皆さんは、日々の緊張した心をリラックスさせ、心のゆとりを感じながら楽しい時を過ごしました。



春の上京 茶会

今年の春の茶会は、

上京区文化振興会と

上京区役所の共催で、

六月九日に御霊神社で

催しました。

新緑の香りが匂おう

境内で本席を書院、

副席を絵馬所に設け、

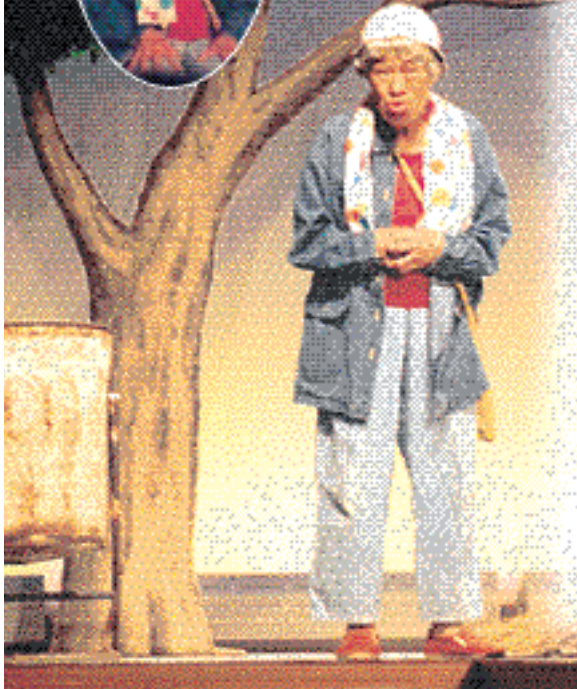
表千家家元の懸釜で

四百人余りの上京区民らが

佗びの境地に没りました。



憲法月間のつどい



五月の憲法月間にあたって、五月十四日、上京区民ふれあい事業実行委員会、上京区地域開発推進協議会主催の「憲法月間のつどい」が、西陣公会館で開催されました。「二十一世紀は「人権の世紀」と言われておりますが、上京区役所では日々の暮らしの中に人権を大切に、尊重しあう習慣が根付いた「人権文化」の息づくまちづくりを目指した取組みとして、今回は、新藤英子さんの一人芝居「ヒミコ伝」を開催しました。

新藤さん演じる主人公村田ヒミコが、激動の時代を様々な体験をするなかで、明るくたくましく、生き抜いてきた姿を熱演していただきました。午後一時三十分から約二時間、会場一杯の区民約三八〇名に、涙と笑いを誘いながらも深い感動と、人権の重みを鋭く訴えていただいた舞台でした。

上京区民の文化的情操を高めるのが 上京区文化振興会の 使命です。

発定以来40年余、上京区民の文化人によって組織され、文化振興に尽くしてきました。



編集後記

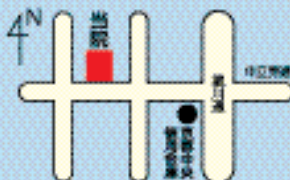
本号は偶然にも一条通にかかわる記事が重なり、一条通の特集のようになってしまいました。これも上京の文化の厚さを示すのでしょうか。

「上京クイズ」を市民しんぶんの上京区版と統合したため、読者の声が聞かれなくなってしまう。御意見を上京区役所地域振興課までお寄せください。

耳鼻咽喉科

鈴木医院

京都市上京区中立売通堀川西入
441-0675



診療時間

月・火・水・金

午前 8:00～12:00

午後 4:30～ 7:30

土

午前 8:00～11:30まで

休診 水・日・祝

水産料理
祇園
田



〒605-0068 京都市東山区山田町4番地4号
TEL.075-525-1515

元祖
ぼたん鍋と京料理
畑かえ



京・と併設 前丸太
京・と併設 前丸太

各種懇親会に御利用下さい
宴会・婚礼・会議・宿泊・レストラン

くつろぎ
¥3,500(税別)

ホテルルビノ京都堀川


〒602-8056 京都市上京区東堀川通下長者町
TEL.075-432-6161代 FAX 075-432-6160 <http://www.rubino.gr.jp/>




創立以来七〇年にわたって、和やかな家庭的な雰囲気にもまれつつ就学前教育の本流をめざして、保育を続けて参りました。幼児たちは楽しい遊びを通して、人生に必要な生きる力のすべてを手に入れます。

学校法人 北野幼稚園
京都市上京区御前通一条下る
(北野天満宮/バス停下車南100m)
TEL.463-0111代
http://homepage3.nifty.com/kyotokitano_k/

京料理
雲龍



京料理 雲龍

京料理 雲龍

本店 京物・室町上三軒
電話 (432) 2211代
高尾店 京物・高尾上三軒
電話 (432) 3141代